

＜常設展「していみゅーで発見！岡山の魅力！」関連企画＞



岡山シティミュージアム 開館 20 周年記念

シリーズ 映像で振り返る

岡山の「昭和 100 年」



令和 7（2025）年は、岡山シティミュージアムが開館 20 年を迎えた記念すべき年であるとともに「戦後 80 年」「昭和 100 年」という大きな節目の年でもあります。そこで、これまでに当館が制作・発掘・収集してきた、地域に根ざした映像作品群から 30 本程度を選び、常設展の会期中に「ミュージアム講座」として 10 回連続の上映会を開催します。岡山市の「昭和 100 年」を振り返り、次代の岡山を担う世代へ、ふるさと岡山がこれまで歩んできた歴史を伝える機会にしたいと思います。

第 2 回は「空襲と戦後復興から政令指定都市 岡山へ」。岡山市が誕生したのは明治 22（1889）年。空襲による未曾有の破壊を乗り越え、復興への道を歩み、平成 21（2009）年に政令指定都市となるまでの歴史を映像でたどります。

上映会「映像で振り返る岡山の『昭和 100 年』」

第 2 回「空襲と戦後復興から政令指定都市 岡山へ」

開催日：令和 7（2025）年 10 月 11 日（土）

会場：岡山シティミュージアム 4 階講義室

開場：13:30 開演：14:00 終了予定：15:30 の見込み

* 参加無料。定員 70 名。事前の電話による申し込みが必要です

申し込み開始：9 月 18 日（木）10:00～

主催：岡山シティミュージアム

〒700-0024 岡山市北区駅元町 15-1 リットシティビル南棟 4 階・5 階

申し込み・問い合わせ用電話：086-898-3000

<上映予定の映像作品>

■「戦災と復興・発展 岡山の 60 年」



企画 岡山市

制作 山陽映画株式会社

長さ 15 分 45 秒

完成 平成 17(2005)年 8 月

(内容)戦後 60 年の記念事業として岡山市が制作しました。岡山市の「昭和 100 年」で最も凄惨

な経験だった昭和 20(1945)年 6 月 29 日の米軍による空襲から歴史をひも解き、2 時間足らずの空襲で 1,700 人以上が死亡、市街地の約 7 割が焼失した空襲の実態を体験者の証言によって伝えます。戦後の廃墟からの復興と街づくり、国民体育大会の開催、岡山城再建、母子保健 3 冠達成など医療・福祉の充実、新幹線や高速道路、瀬戸大橋の開通による中四国の結節点としての発展、平和都市宣言など、岡山の戦災・復興・発展の歴史＝岡山の戦後 60 年を 15 分の作品の中でたどり、最後に後世の岡山市民へ平和を願うメッセージを送っています。

■「岡山の戦災遺跡」



制作・著作 岡山市デジタルミュージアム

長さ 24 分 9 秒

完成 平成 14(2002)年 1 月

(内容)岡山市内で戦争の爪痕を目にすることはほとんどなくなりましたが、お寺の山門の裏側に回ると焼け焦げた柱が使われていて、空襲の

惨禍を目の当たりにすることがあります。21 世紀の初めに「岡山の戦争と戦災を記録する会」代表の片山和良さんが、西川にかかる田町橋、岡山城の石垣、旭川畔の榎、禁酒会館、国清寺など、岡山市内に残る戦災遺跡を訪ね歩き、空襲による破壊と焼失の広がりを明らかにします。

■「進駐軍が見た岡山 1946～1947 年」



長さ 11 分

完成 平成 19(2007)年 8 月

(内容)アメリカ陸軍少佐で進駐軍の初代岡山軍政部長として赴任したエドウィン・C・ホイットニーは、8 ミリカメラを手に戦災からの復興途上にあった岡山市の街並みや人々の暮

らしをカラーフィルムで撮影しました。昭和 21(1946)年 2 月から撮影を始め、残されたフィルムは岡山を記録した最古のカラー動画といわれます。表町商店街、後樂園、焼失を免れた岡山城月見櫓、三輪車や大八車を引く人、農業や漁業に携わる人々など、戦後間もない時代に復興へ歩み始めた岡山市を描いた貴重な映像資産です。

■「写真と映像で見る岡山市の 120 年～政令指定都市・岡山の誕生～」



企画・制作 岡山市デジタルミュージアム

長さ 9 分 13 秒

完成 平成 21(2009)年

(内容)明治 22(1889)年に旧城下町を中心に人口 47,564 人で発足した岡山市が、周辺の市町村と合併を繰り返し、平成 19(2007)年に人口が

70 万を超え、平成 21(2009)年に政令指定都市となるまでの 120 年の歩みを写真と映像で振り返った作品。この間の主な出来事が 9 分余りの作品の中に凝縮され、次々と紹介されます。